

既刊「電中研レビュー」ご案内

- NO. 38 「大気拡散予測手法」2000. 3
NO. 39 「新時代に向けた電力システム技術」2000. 6
NO. 40 「原子燃料サイクルバックエンドの確立に向けて」2000. 11
NO. 41 「需要家と電気事業のエネルギーをトータルで考える
需要家の特性解明と省エネ技術」2000. 11
NO. 42 「原子力発電所の人工島式海上立地」2001. 1
NO. 43 「酸性雨の総合評価」2001. 2
NO. 44 「石炭ガス化複合発電の実現に向けて
実証機開発の支援と将来への研究展開」2001. 10
NO. 45 「地球温暖化の解明と抑制」2001. 11
NO. 46 「微粉炭火力発電技術の高度化
環境性の向上と発電コストの低減」2002. 11
NO. 47 「商用周波磁界の生物影響研究」2002. 11
NO. 48 「送電設備の風荷重・風応答評価技術」2003. 2

編集後記

京都議定書で約束している地球温暖化ガスを削減するためには、省エネルギーの推進、発電効率の向上、CO₂排出量の少ない電源の積極的導入など、さまざまな対応が必要である。一方、自然エネルギーをある一定割合以上に導入することを義務づけるRPS (Renewables Portfolio Standard)制度が、平成15年4月から施行される。対象となるエネルギーは、1. 風力 2. 太陽光 3. 地熱 4. 水力（水路式の1000kW以下の水力発電） 5. バイオマスである。

本文中にもあるように、現在わが国の地熱発電の発電設備容量は55万kWであり、全発電設備容量に占める割合は0.20%に過ぎない。しかし、発電電力量に占める割合は0.32%と、数値はやや上がる。これは地熱発電がベース的に用いられているからに他ならない。自然エネル

ギーの中で、地熱エネルギーはとくに安定した特性をもつ優れたエネルギーである。

地熱エネルギーをより大規模に利用しようという「高温岩体発電」の雄勝での研究は、さまざまな成果を得て、ここで一区切りをつける形となる。今後、オーストラリアでの高温岩体発電の実証研究への参加などが決まっており、さらに期待は膨らんでいく。

地熱は地球の恵みである。エネルギー資源の多くを国外に依存しているわが国であるが、地下には「地熱」という世界に誇るエネルギー資源が眠っていることを最後にもう一度記して、編集後記に代えたい。本冊子が皆様の未利用地熱資源の開発について、ご理解いただく一助となれば、望外の喜びである。



電中研レビュー NO.49

平成15年3月20日

編集兼発行・財団法人 電力中央研究所 広報部
〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1 [大手町ビル7階]
☎ (03) 3201-6601 (代表)
E-mail : www-pc-ml@criepi.denken.or.jp
<http://criepi.denken.or.jp/>
印刷・株式会社 電友社

本部 / 経済社会研究所 〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1 ☎ (03) 3201-6601 我孫子研究所 〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子1646 ☎ (04) 7182-1181
狛江研究所 / 情報研究所 / 原子力情報センター 横須賀研究所 〒240-0196 神奈川県横須賀市長坂2-6-1 ☎ (0468) 56-2121
ヒューマンファクター研究センター / 低線量放射線研究センター / 事務センター 赤城試験センター 〒371-0241 群馬県勢多郡宮城村苗ヶ島2567 ☎ (027) 283-2721
〒201-8511 東京都狛江市岩戸北2-11-1 ☎ (03) 3480-2111 塩原実験場 〒329-2801 栃木県那須郡塩原町関谷1033 ☎ (0287) 35-2048



この冊子は大豆インキで印刷されています



古紙配合率100%の再生紙を使用しています